

令和3年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立長橋小学校

2022（令和4）年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校児童の学力的な課題は大きく、国語科教育の研究・取組を進める中で「読解力」向上をめざすも学力経年調査等の結果は厳しいものであり、他教科においても同様の傾向が表れている。その背景には、厳しい生活環境が少なからず影響している。遅刻・欠席は相当数にのぼっており、一部改善傾向はみられたものの、継続的な課題となっている。また、遅刻・欠席の多い児童や発達上の課題のある児童への個別の支援を継続してきたが、基礎的な学習内容の習熟が不十分なため、新しい学習内容の定着度が低く、学習意欲が低下してしまうケースもあった。基本的な生活習慣を確立させることを目的に、「早寝、早起き、朝ご飯」の啓発週間を設け、児童、保護者へ働きかけたり、電話連絡や家庭訪問により保護者の協力を求めたりしてきたが、今後も継続する必要がある。さらに、個別の支援を必要とする児童が見られ、自尊感情を低下させたり、問題行動を引き起こしたりすることもあった。また、地域においては、児童が地域の催しにあまり参加していない傾向が見られる。今後の町の活性化のためにも、学校がパイプ役となり、保護者・児童への働きかけを強化する必要がある。地域との連携は児童の安心・安全等、学校教育に欠かせない要素であり、町への関心、誇りを高め、プラスイメージを高めていくことが本校的な課題と捉えている。

今年度は、昨年度より続く新型コロナウイルス感染症対策を進めていきながらの教育活動となる。児童・保護者の不安を少しでも取り除き、安心・安全を確保しつつ教育活動を進めていくことが必要となる。さらには、今年度より一人一台端末の本格実施を進めていくことが大阪市の課題でもある。本校としても環境を整えるとともに、児童が自ら主体的に取り組めるよう継続した指導が必要となる。

これらの課題解決に向け、これまでの本校の取り組みである、人権教育を土台とした学力向上と集団育成の深化充実に努めていく。教育の根幹であるこれらの取り組みを通して、児童の生きる力を育んでいく。さらには、大阪市の施策の活用も図りつつ、取り組みの進化発展と今日的な教育課題の解決を進めていく。コロナ禍の現状も鑑み、創意工夫を凝らした柔軟性ある動きが必要であり、そのためには、教職員が協力・協働し、連携した動きは必要不可欠となる。教職員が一致団結し教育活動を進める中で、児童のよさを認め自己肯定感を高めつつ、将来の夢や目標を持ち、広げていけるよう支援を継続していく。教職員が一丸となり、「チーム長橋」として進めていくものとする。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 校内調査において、「学校は、いろいろなことが学べて楽しいところである」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和 3 年度までに 90% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 校内調査において、「授業の内容がわかりますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を令和 3 年度までに 85% 以上にする。
- 校内調査において、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和 3 年度までに 65% 以上にする。
- 校内調査において、「運動することがすき」「どちらかといえばすき」と答える児童の割合を令和 3 年度までに 85% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80% 以上にする。
- ③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- ⑤ 本年度末に学校が実施する全学年児童対象の生活アンケートで、「自分にはよいところがある」「どちらかといえばある」と答える児童の割合を、70%以上にするとともに、「自分にはよいところがない」と答える児童の割合を 15%以下にする。
- ⑥ 本年度末に学校が実施する全学年児童対象の生活アンケートで、「将来の夢や目標がある」「どちらかといえばある」と答える児童の割合を、80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- ④ 小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤ 前年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において課題であった「反復横跳び」の平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。

学校の年度目標

- ⑥ 学校が実施する全学年児童対象の生活アンケートで、「運動することがすき」「どちらかといえばすき」と答える児童の割合を 85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

子どもたちが安心して過ごせる学校にするために、自己理解の深化、自己肯定感、自尊感情の向上などを意識した取り組みを年度当初年間計画に設定した。しかしながら、昨年度より状況が変わり、不安などの理由により家で過ごす時間が多くなっている子どもたちが増えている。従前から支援を要する児童のことがさらに不明確になり、遅刻や欠席も増え、個々の心身面でのケアが必要である。

そこで、日々の児童の様子を把握するために、教職員が情報の共有化を綿密に行った。気づきや違和感をすぐに共有することで、初期対応やチームで分担して子どもに関わるようとした。場合によっては、校内全体で周知し、学校全体で対応ができるようにした。その成果もあり、対応に苦慮する案件もなく、学校が安心して過ごせる居場所になっている。いじめ対応は初期対応で解消することもでき、「いじめアンケート」で「いじめはいけない」と答える児童も高められている。

また、児童理解のみならず、子どもの思いや考えを自然と出せる関係づくりのために、日々の声掛け、学級活動、児童会活動、学校行事などの実施、実態把握するためのアンケートを取り組み、様々な視点からの情報を受け止められるように努めた。

今後の未来を担う人材育成のためにも、教育の充実は必要不可欠である。そのために学びは必要であると根気強く子どもたちに伝え続けている。個々の実態把握に努め、担任、サポートなど連携して少人数指導、個別指導、習熟度別学習指導などの工夫を施した。不安で自宅で学ぶ児童には一人一台端末を活用してオンライン学習を進めることで、学校とのつながりを絶やさないようにした。すべての児童の状況を把握し、個々に合うように教材作成や声掛けを丁寧に行った。

健康的な生活習慣、運動能力を維持するためにも、かけあし、なわとびなどの基礎体力づくりを実施、さらに教員も児童とともに運動を楽しむことで、事後アンケートでは「運動をすることが好き」と答える児童の割合も維持できている。

以上の視点から、本校の目標にあげた項目においては適切であったと考える。これらの取り組みを今後も継続していくことで学習面、生活面での安定につながっていく。

課題としては、はじめに挙げたとおり、これらの取り組みにすべてに関われなかつた児童へのアプローチの内容と方法を考えていくことである。誰一人として取り残さない学校にするために、より一層の児童理解を図っていくことを今後の課題として取り組んでいく。

大阪市立 長橋 小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（小・中学校）	
① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。	6月 100% → 1月 95.25%
② 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80% 以上にする。	6月 95% → 1月 89%
③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	2020 年 1 件 → 2021 年 7 件
④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	2020 年 1 件 → 2021 年 3 件
学校の年度目標	
⑤ 本年度末に学校が実施する全学年児童対象の生活アンケートで、「自分にはよいところがある」「どちらかといえばある」と答える児童の割合を、70%以上するとともに、「自分にはよいところがない」と答える児童の割合を 15%以下にする。	6月 74%・17% → 1月 75%・12%
⑥ 本年度末に学校が実施する全学年児童対象の生活アンケートで、「将来の夢や目標がある」「どちらかといえばある」と答える児童の割合を、80%以上にする。	6月 85% → 1月 83%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学年会や定例ケース会議、各種部会において子どもの様子の交流を日常的に行う。いじめの早期発見に努め、掌握したいじめについてはその原因を明らかにし、組織的にいじめ解決を図ることができるようとする。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート（毎学期実施） 実施 6月 100% → 1月 95.25% ・いじめアンケートによって認知した件数のうち解消した割合を 95%以上にする ・生活アンケート いじめに対する意識「いじめはいけない」の肯定的な回答を 95%以上にする。 6月 99% → 1月 99% ・定例ケース会議・スクリーニング会議を月 1 回実施する。 毎月実施 	B

<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>生活目標、学校安心ルールなどを児童に提示し指導を進めることで、児童自らが行動をよりよいものにしようとする意欲を高める。教職員が子どもを認められる場面や子ども相互に評価する場面を効果的に取り入れ、自分のよさや可能性を感じられるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「学校の決まりを守っていますか」で肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 6月 95% → 1月 89% 生活アンケートの「自分にはよいところがある」で肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 6月 74% → 1月 75% 生活目標の周知・掲示を月1回行う。 児童集会での周知・掲示物の作成 	
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>命の教育として防災・減災教育に取り組む。地震、火災などの自然災害を想定した避難訓練を実施し、命を守る行動をとることができるようとする。また、中学校や区役所と連携することを通して、学校や地域に目を向け、自分たちの町や人のために行動できる心を養い、協力することの大切さに気づくことができるようとする。</p>	B
<p>指標</p> <p style="text-align: right;">中期 99% → 97.6</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り組み後の児童のアンケートの肯定的な回答の割合を85%以上にする。 【避難訓練後のアンケート「あなたは命を守る行動をとることができますか】 活動の様子を伝える防災新聞の発行 ホームページ・新聞の定期発行 生活アンケートの「人にやさしくしていますか」で肯定的な回答の割合を85%以上にする。 6月 93% → 1月 88% 	
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>韓国・朝鮮につながりをもつ児童をはじめ、フィリピン、中国など5つの国や地域につながりのある児童が在籍している。遊びや歴史にふれる機会を通して、それぞれの国や民族の文化を理解し、民族のアイデンティティーを育てるとともに、国際社会を生きる素地となる力を育てる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会、演劇鑑賞会の実施 実施予定 学習や活動の様子を伝える新聞などの定期発行 定期的に発行できている 発表会と演劇鑑賞会後の児童アンケートにおいて肯定的な回答の割合を85%以上にする。 発表会 達成 演劇鑑賞会 実施予定 	
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>芸術・文化・スポーツ界で活躍している人や地域や社会で活躍している人をゲストティーチャーとして招き、キャリア教育の一環として「ほんもの」にふれる機会をつくるようにする。また、地域の施設を見学したり、体験的な学習を通して人権教育を推進する。</p>	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み後の児童のアンケートの肯定的な回答の割合を85%以上にする。 ・生活アンケートの「未来のことについて考えたことがありますか」で肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 6月 78% → 1月 81% ・生活アンケートの「学校は、いろいろなことが学べて楽しいところである」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 6月 90%→1月 85% 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p>	
<p>学校生活の様子を日々観察し、子どもとの会話ややりとりを通して、状況把握に努めた。認知したいじめについては、ていねいに聞き取り保護者連絡を行った。日々のトラブルに対して解決に向けて取り組んで入るが、友だちとの関係が改善されていない状況もある。</p>	
<p>定例ケース会議やスクリーニング会議を通し、全教員で児童の様子を把握し、共有することができた。全員で同じ目線に立ってみることで、自分の学年だけでなく、他の学年の児童にも統一した指導ができている。</p>	
<p>取組内容②</p>	
<p>89%の児童がきまりを守って学校生活を送ることができていると感じており、規範意識は高い。だが、教員の見ているところではルールを守るが、そうでないところで守らないことがある。また、染髪したりピアスをあけたり、廊下を走っていたりする児童もいる。</p>	
<p>「自分にはよいところがある」の肯定的な回答は、高学年にしては高い数値だと思う。自分に自信をもって行動することができる児童が多くいた。</p>	
<p>取組内容③</p>	
<p>防災学習、ちびっこ防災プロジェクトの活動等を通して、避難訓練では自分たちで考えて行動することができるようになってきている。</p>	
<p>人にやさしくする行動をとることができる児童が多いが、6月よりもできていると回答している児童は減少している。</p>	
<p>取組内容④</p>	
<p>民族学級やフィリピン学級・多文化共生学級について、日々互いの活動を報告することで、興味を持ち、がんばりを称賛し合うことができた。また、長橋小学校の全児童が自分のルツや民族の文化を理解し、大切に活動することができた。</p>	
<p>取組内容⑤</p>	
<p>多くのゲストティーチャーの方から話を聞く機会があった。活動後に、お礼の手紙を書くことにより、学んだ内容や目的が児童の心に深く残せた。</p>	
<p>高学年の児童は、多くの児童が未来について考えていることが回答から分かった。一方、児童低学年の児童にとって、「未来のことについて考えたことがありますか」の質問は難しかったようで、肯定的な回答は61%と低かった。遠い未来（大人）はまだよくわからず、近い未来（明日、明後日）なら考えられる。</p>	
<p>全体を通して</p>	
<p>数値的には、年度当初と年度末を比較して数値があがった項目もあったが、低くなっている項目もあった。2学期以降、コロナの影響で学校休業や不安のため学校を休む児童も増え、児童が安心して学ぶことが難しい状況もあった。</p>	

中期目標について

校内調査において、「学校は、いろいろなことが学べて楽しいところである」の項目について、肯定的に答える児童の割合が 85% であり、目標の 90% を達成することができなかった。児童は、学校生活の中でいろいろなことが学べているという実感と、安心して過ごすことができているという実感の双方をもつことによりこの項目が高くなると考えられる。昨年度より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学校休業や分散登校などがあった。そのため、児童にとって学校が、安心して学ぶことのできる環境ではなくなっていることも影響の一つだと考えられる。

次年度にむけて

取組内容①

人にやさしくの数値が下がった。学校生活に慣れてきたからか、本人たちの困り感が出てきているのかもしれない。暴言や暴力などで自分の感情を相手にぶつけるのではなく、友だちとのより良い関係を築いていくためのスキルを習得していくことを継続していく。また、個人だけでなく、学級の環境も重要である。一人ひとりを大切にし、互いのことを尊重できる仲間づくりを進めていく。

いじめの早期発見と組織的にいじめ解決を図るために、いじめアンケートと並行して日頃から児童の様子を観察し、気になることや変化があれば定例ケース会議等で共有し対応をしていく。

いじめについて考える日だけでなく、日々の活動の中でもいじめについて話をしたり、差別について考えたりしていく。

取組内容②

「自分にはよいところがある」や「未来のことについて考えたことがありますか」など「ある」と答える児童が他のものよりも低くなっているものは、キャリアパスポートや活動を通して、定期的に自分を見直す時間をつくっていく。児童の自己肯定感を高めるための手立てを考えるため、専門の先生を講師に招き、教職員が学び深めていく。

児童に対してポジティブな言葉がけを行ったり、相互にがんばりや良さを伝え合ったりする活動を充実させていく。今後は、PBIS など学校全体として児童の自己肯定感を高める取り組みを進めていく。

取組内容③

今後、防災だけに限らず、防犯訓練や防犯教室も併せて実施し、児童が安心して過ごせる学校づくりを進めていく。自分の命を守るための行動だけでなく、人の命を大切にするためにも、他者を思いやる行動や力を合わせて取り組むことのできる活動を取り入れていく。

取組内容④

来年、民族学級開設 50 周年を迎える。自分たちのルーツを大切にするためにも、遊びや文化を通して、民族のアイデンティティーを育てていく。同時に、フィリピン学級・多文化共生学級の児童も、自分たちのルーツを学び、発表し合うことにより、互いの国の良さを知り、共生社会を築くことのできる力の素地を養っていく。

取組内容⑤

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ゲストティーチャーが来校できる機会が減った。来年度は、感染防止に努め、児童が自分の将来や生き方を考えるきっかけを多くつくること

のできるようにしていく。

学校はいろいろ学べて楽しいところだと感じられない児童が 15%いる。一人ひとりの児童のもつ背景や思いを受け止め、楽しく学び、安心して過ごすことのできる学校にしていくために学校の取組を検討し、実施していく。

(様式2)

大阪市立長橋小学校 2021(令和3)年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった							
年度目標			達成状況				
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】							
全市共通目標(小・中学校)							
<p>① 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">3年: R2 R3 90.5</td> <td style="text-align: center;">4年: R2 R3 89.7</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5年: R2 R3 87.9 90.0</td> <td style="text-align: center;">6年: R2 R3 93.5</td> </tr> </table>				3年: R2 R3 90.5	4年: R2 R3 89.7	5年: R2 R3 87.9 90.0	6年: R2 R3 93.5
3年: R2 R3 90.5	4年: R2 R3 89.7						
5年: R2 R3 87.9 90.0	6年: R2 R3 93.5						
<p>② 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">3年: R2 R3 41.6</td> <td style="text-align: center;">4年: R2 R3 51.6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5年: R2 R3 59.3 60.0</td> <td style="text-align: center;">6年: R2 R3 39.1 36.0</td> </tr> </table>				3年: R2 R3 41.6	4年: R2 R3 51.6	5年: R2 R3 59.3 60.0	6年: R2 R3 39.1 36.0
3年: R2 R3 41.6	4年: R2 R3 51.6						
5年: R2 R3 59.3 60.0	6年: R2 R3 39.1 36.0						
<p>③ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">3年: R2 R3 91.6</td> <td style="text-align: center;">4年: R2 R3 92.5 90.3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5年: R2 R3 87.5 97.1</td> <td style="text-align: center;">6年: R2 R3 95.6 100</td> </tr> </table>				3年: R2 R3 91.6	4年: R2 R3 92.5 90.3	5年: R2 R3 87.5 97.1	6年: R2 R3 95.6 100
3年: R2 R3 91.6	4年: R2 R3 92.5 90.3						
5年: R2 R3 87.5 97.1	6年: R2 R3 95.6 100						
<p>④ 小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、前年度より増加させる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">学習アンケート: R2 90% R3 81.8%</td> </tr> </table>				学習アンケート: R2 90% R3 81.8%			
学習アンケート: R2 90% R3 81.8%							
<p>⑤ 前年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において課題であった「反復横跳び」の平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">R2: 38.73 R3: 41.76</td> </tr> </table>				R2: 38.73 R3: 41.76			
R2: 38.73 R3: 41.76							
学校の年度目標							
<p>⑥ 学校が実施する全学年児童対象の生活アンケートで、「運動することがすき」「どちらかといえばすき」と答える児童の割合を85%以上にする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">生活アンケート 88%</td> </tr> </table>				生活アンケート 88%			
生活アンケート 88%							

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<p>取組内容① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>各学年の教師集団が学年児童全体の把握を行い、基礎・基本的な学習内容の定着を図り、児童一人ひとりに応じた指導や支援を実践する。TT体制を活かして、習熟度別少人数指導を取り入れるなどして、補充学習を行う。</p>		

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童への学習アンケート(4・6・9・12・2月実施予定)の国語科・算数科に対する「わかる」「どちらかといえばわかる」と答える児童の割合を85%以上にする。 国語科 90.8% 算数科 87.8% 各学年内で身につけるべき基礎学力の定着度を小テスト・単元テスト等により測定し、目標設定値へ到達する。 ⇒○と△ 	C
<p>取組内容② 【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 【施策4 全ての基盤となる幼児教育の普及と質の向上】 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>6年生が1年生に、小学生が保育所の子どもたちに等、縦割りの読み聞かせを行う。目的意識を持ち、各自が読み聞かせの練習を重ねたり、低学年の何気ない疑問に答えたりするなかで、読書力や思考力の向上を図る。また、読書する機会を増やし、本を読むことに対して肯定的にとらえる児童の割合を増やす。</p>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童への学習アンケートの「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対し、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 学習アンケート 81.8% 学習アンケートの読み聞かせが楽しいと肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 学習アンケート 91.4% 学習アンケート(4・6・9・12・2月実施予定)の本を読むことが好きと肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 学習アンケート 89.8% 地域にある図書館との連携により読書活動の環境づくりを推進する。⇒○ 	
<p>取組内容③ 【施策7 健康や体力を保持促進する力の育成】 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>各学期に、児童の体力向上に向けて体力向上週間（かけ足・なわとびなど）を設定し、がんばりカードを活用することで、目標を持って取り組ませるようにする。また、健康強化週間を実施し、基本的な生活習慣を身につけられるようになるとともに、新しい生活様式を踏まえて感染症対策を施し健康教育を推進する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習アンケート(12・1月実施予定)で「運動することが好きですか」に肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 アンケート 89% 体力向上週間実施後の児童アンケートの、体力づくりや運動に親しむ項目で、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 アンケート 85% 健康強化週間のがんばりカード「手洗い」の項目で、手を洗っていると回答する児童の割合を80%以上にする。 がんばりカード「手洗い」の項目 94.3% 	B
<p>取組内容④ 【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>一人ひとりが課題解決できる支援のあり方や、全ての児童を学びの場に入ることと、より深い学びとするための支援や工夫、ＩＣＴ等を活用した視覚聴覚支援の工夫について追究する。また、一人一台学習用端末とデジタル教材を効果的に活用し、学習効果の向上を図る。</p>	

指標

- ・学習アンケート(4・6・9・12・2月実施予定)で「ICT(プログラミング等)を使った学習が楽しい」の項目で肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

学習アンケート 95.2%

- ・学習アンケート(4・6・9・12・2月実施予定)で「ICT(プログラミング等)の使用により授業が分かる」の項目で児童の割合を85%以上にする。

学習アンケート 90.6%

- ・就学前の実態をふまえた1年生スタートカリキュラムを効果的に活用する。

⇒○

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○ 年間5回の学習アンケートを通して国語科・算数科に対する「わかる」「どちらかといえばわかる」の肯定的な回答をした児童の割合は国語科90.8%、算数科87.8%と中間時に引き続いで目標数値を上回ることができた。また、基礎学力を身につけるために、MIM-PMや算数チャレンジなどのエビデンスを基にみえてきた課題に対して朝学習や家庭学習で取り組んだ。児童自身が成長を感じられるようにしたことで意欲的に取り組むことができた。しかし、児童の意欲や「勉強がわかる」ということがテストの結果に結びついているとは言い難く、今後の課題である。

○ 学習アンケートの「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目では、肯定的な回答が81.6%と目標数値を下回る結果となった。コロナ禍による欠席、出席停止の増加や教育活動の制限など児童が互いに話し合い考えを深める活動が活発に実施できない状況であった。そんな中でも感染症対策を講じながら、少人数指導や個別指導、学習環境の整備など工夫してできることを実施してきた。

「読み聞かせ」や「読書」については、どちらも目標数値である85%を上回ることができた。今年度の研究教科である国語(日本語)科の取り組み「読む力の育成」の一環である「よみきかせ」や「読書」をする機会を多く設定することで児童の意欲的な活動につなげることができた。

○ アンケートの「運動することが好きですか」の項目や「体力づくりや運動に親しむ項目」では、いずれも目標数値である85%を上回ることができた。ランランタイムやぴょんぴょんタイムでは、実施方法を工夫し児童の体力向上に向けて取り組むことができた。しかし、寒さや発達段階によって休み時間に外遊びに行く児童が少なくなる傾向がある。また、運動することは好きだが、体力作りとなるとアンケートの数値が伸びにくいところもある。

健康強化週間で、登校後に1回以上手を洗えていたかという点では、94.3%という結果になった。登校後だけではなく、体育や休み時間の後、給食の前など、担任の先生からの声かけもあり、がんばりカードの様子以上に児童の手洗いへの意識が高まった。

○ ICTに関わるアンケートについては、「ICT(プログラミング等)を使った学習が楽しい」や「ICT(プログラミング等)の使用により授業が分かる」のどちらの項目も中間時に続いで目標数値を上回ることができた。日々の授業で、デジタル教科書の活用や学習者用端末を使用することが標準化されつつあることが、目標達成の一因であると考えられる。また、視覚的な支援が充実してきたことで児童にとってより「楽しい」「わかる」という達成感や成就感を味わわせることができた。

○ 4つの取組内容を基に、さまざまな教育活動を実践してきた。今年度の小学校学力経年調査の結果を見てみると前年度と比べて数値を伸ばし、前年度を上回る項目があった。しかし、大きく下回る項目はなかったもののわずかに下回る結果もあった。年度目標を

達成できなかった項目があるが、今年度もコロナ禍によるさまざまな影響がある中で、児童の実態を把握しながら教職員で知恵を出し合い「できること」を考えながら工夫して教育活動を進めてきた。

- 中期目標である『校内調査において、「授業の内容がわかりますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を令和3年度までに85%以上にする』の項目では、89.2%と目標数値を上回ることができた。

『「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度までに65%以上にする』の項目では、81.8%と目標数値を上回ることができた。

『校内調査において、「運動することが好き」「どちらかといえば好き」と答える児童の割合を令和3年度までに85%以上にする』の項目では、88%と目標数値を上回ることができた。児童の学習面や生活面など実態把握を正確に行い、児童に応じた指導や取組を継続してきたことが目標達成につながったといえる。

次年度にむけて

- 児童が学習内容を身につけるために、少人数指導、習熟度別指導、TT指導を取り入れ進めてきた。また、放課後にも学習できる時間を確保し、児童の学習内容の定着に努めた。今後もできる限り学習の補填ができる時間を確保してきたい。また、学年で身につけるべき基礎学力を確認し、定着を図りたい。授業で、「できた」「わかった」という児童の達成感をテスト等の結果に結び付けられるように個に応じた学習の手立て、個別最適化の学習について検討しき必要がある。また、可視化できるアセスメントツールをうまく利用していく。

今年度は研究の主題であった読む力の育成に努めてきた。多くの児童が本に親しみ文や語に触れる機会をもてるようにしてきた。今後も、有効であった取組は継続しつつ、課題として見えた「初見の文に対する苦手意識」などを克服していく手立てを考えていく必要がある。また、朝の学習などによる「よみきかせ」「読書」の場所を分散して実施することも一つの方法として考えられる。

渡日児童で、日本語指導が必要な児童は「個別指導」や「よみきかせ」「視聴教材」などで日本語の習得と理解を深めていきたい。

- 「学級の友達との間で話し合う活動」においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、学級の人数が少ないとことや、オンラインによる学習参加などもあり、思うように対話的な活動が実施したくてもできない現状があった。次年度もこのような状況になることを想定しつつ学習活動の在り方を見直していく。

- 感染症対策である「マスクの着用」「手洗い」については、健康強化週間のみならず年間を通して継続的に実施することができた。運動についても、制限がある中ではあるが、体力の向上を目指し、分散したり、間隔をあけたりして実施できた。次年度も感染症対策、健康の保持増進の意識をもって取り組みを進めていきたい。

- ICT機器は、児童自身が使用したり、授業で活用したりなどあらゆる場面で取り入れてきた。これは、視覚的な支援と同時に児童が集中して取り組むことに大きな効果があった。しかし、ICT機器を使い過ぎると、本来の必要な「聞く力」が育たなくなったり、ICT機器への「依存」が生じて逆効果になったりする恐れもある。活用のタイミングや使用法を考えていく必要がある。